

一報告期ハ一月ヨリ三月迄ヲ第一期四月ヨリ六月迄ヲ第二期七月ヨリ九月迄ヲ第三期十月ヨリ十二月迄ヲ第四期トス

一六種傳染病ニ就キ各一表ヲ製スヘシ

一每期報告在監人一日平均數ハ一期間毎月末ノ現在數ヲ以テ平均スヘシ

一第四期報告ノ備考ニ一箇年間毎月末ノ現在數ヲ以テ平均シタル在監人一日平均數ヲ掲クヘシ

一第一期ニ報告シタル感染監房數ハ第二期報告ニハ之ヲ省キ其期中ニ新ニ患者アリタル監房ノミヲ掲ク第三期以下之ニ倣フ

北海道廳達 十九年五月二十二日
已第五十九號郡區役所戸長役場支廳管内ヲ除ク

傳染病患者表式左ノ通相定候條右様式ニ照準毎年四度 四月七月十月該月五日ヲ限り報告スヘシ但本年第一期分ハ此際報告スヘシ

右相達ス

明治十五年六月當省乙第三十九號達但書ヲ刪除シ同十六年五月同乙第二十七號達ヲ廢止ス

監獄在監人愚者及亡死
亡者明細表ヲ廢ス

衛生事務報告例

二十一年十月内務省令第
八號ヲ以テ廢止ス
同年同月同省訓令第二十
號ヲ以テ更ニ之ヲ定ム
二十年一月同省訓令第五
號ヲ以テ新ニ三省令訓令中
二期假ヲ報告シテ要ス
ルトキハ報告日中ニ追
加シタラバ心得シム
文書門記錄志ヲノ日ニ載ス

内務省令節錄
 十九年九月二十七日
 第十七號 府縣憲兵本部集治監假留監
 (金文ハ文書門記録
 志表ノ目ニ載ス)

内務報告例別冊ノ通相定メ本年分ヨリ施行ス

內務報告例

第一條 報告例ハ警視廳北海道廳及憲兵本部集治監假留監ニ於テ法律命令ヲ執行シ或ハ權内ノ事務ヲ處分シタル事項ニ就キ緩急輕重ニ從ヒ報告スヘキ順序ヲ示スモノナリ

第二條 從前本省各局長ノ名ヲ以テ報告ヲ求メ來タリシ者アリト雖モ自今ハ一切本例ノ式ニ循ヒ本省ニ報告スヘシ

第三條 報告ヲ分テ豫報即報月報季報半年報年報ノ六種トス但事倉卒ニ起リ瞬間モ閣ク可ラサル者ハ固ヨリ此例外トス

第四條 豫報ハ將來日月ヲ期シテ舉行スヘキ者又ハ事變ノ兆候ヲ偵知シタル時之ヲ未然ニ報スル者月報ハ毎月季報ハ毎三箇月半年報ハ每半年（會計年度ニ關スル者ハ上下半年度ニ分ツ）年報ハ一箇年（會計年度ニ關スル者ハ一周年度）ニ係ル事項ヲ報告スル者トス

第五條 例目中部門ヲ分チ從前ノ即報ヲ月報ニ月報ヲ半年報若クハ年報ニ改ムル者アリ又之ニ反スルアリ各其定ムル所ニ依ルヘシ

第六條 報告書差出期限從前定期アル者ト否トヲ問ハス總テ例目ノ下欄ニ於テ指定シタル時日ニ於テ各地ヲ發送スル者トス但即報ハ卽時即日若クハ事ヲ了シタル日ヨリ三日以內ニ發送スヘシ

第七條 報告ノ料紙ハ他ノ文書ト混同セサル爲メ左ノ雛形ノ通墨線ノ罫紙ヲ用非六種ニ通用スヘシ

第八條 各報告ノ記載方ニ事件毎ニ紙頁ヲ改メ纏メテ一括トナシ目錄ヲ料紙ニ記シ添付スヘシ

第九條 諸表ノ様式ハ各項ニ因リ大小廣狹アリ豫メ一定シ難シト雖モ成ルヘク美濃紙一葉ニ調製スル

キ空欄アラハ」ヲ填充シテ脱漏ニ非ラサルヲ證スヘシ

ニ依リ原則ノ改正ニ係ルコトアル時ハ延テ本例ニ及フモノトス

シテ其式ヲ設ケサルモノハ適宜調製ス可シ

即報

發送期日

十九年五月省令第四號

十九年三月省令第一號第十八項

同上第十九項

第四 傳染病患者

十九年五月省令第四號

同上

第六

十一年十二月乙第八十八號達

乙第八十八號六治療ノ目
ニ載ス

七月二十日

十八年十月甲第三十三號達

四月二十日

十九年三月省令第二號

同上

同上

同上。

十九年三月省令第一號第十五項

同上

省令第一號第十五項第十
六項第十七項八號附ノ目
二載ス

同上

同上第十六項

同上

同上第十七項

同上

凡例第七條ニ掲クル六種ニ通用スヘキ料紙ノ雛形

何 報

名

第四號

季	
某國	某區 某郡
自何月何日 至何月何日	
</	

第六號

廳名

一中毒ノ欄ニハ尋常中毒者ヲ記シ誤用中毒ノ欄ニハ藥物ヲ誤用シタルモノヲ記シ故意中毒ノ欄ニハ毒物ト知テ自殺ヲ謀ル爲メ用ヒタルモノヲ記スヘシ

第十號

廳
名

--	--

第五十七號

[illegible]

(明治
年)

種痘明細表		(明治 年)	廳名
區別	初種	善感 不善感 疾病事故ニテ種痘セサルモノ	
	再種	善感 不善感 疾病事故ニテ種痘セサルモノ	
三種	善感 不善感 疾病事故ニテ種痘セサルモノ		
	合計		
		滿一年以上	
		滿二年以上	
		滿五年以上	
		滿十年以上	
		滿十五年以上	
		以十五年上	
		合計	

第五十八號

上欄八年末ノ現在數ヲ掲クヘシ
一娼妓一日平均人員ハ一箇年間毎月末ノ現在數ヲ以テ平均スヘシ
一檢査總數ハ一箇年間檢査シタル員數ニシテ例ヘハ一人ノ娼妓毎月四回檢査ヲ受クル時ハ即チ一箇年間四十八人ト算スルカ如シ

年		報	
醫院	醫	產	藥
官	師	婆	舖
立	立	立	立
私	公	公	公
毒	毒	毒	毒
檢	檢	檢	檢
查	查	查	查
所	所	所	所
娼妓一日平均人員	毒毒檢查總數	右ノ内	眞性患者
假性患者	不患者		

北海道廳根室支廳達 乙十九年十一月四日
第八十五號郡役所戶長役場
死亡者年齡區別表ハ本年九_月內務省令第十七號報告例諸表樣式第十號ニ準據シ本年分ヨリ一郡役所下ヲ
一表ニ製シ翌年三月二十日限り差出スヘシ
但本年五_月乙第三十二號達ヲ廢ス

醫事 獸醫治

達 元年三月七日

西洋醫術ノ所長ヲ採用

西洋醫術之儀是迄被止置候得共自今所長ニ於テハ御採用可有之被 仰出候事

高階典藥少允高階筑前介建白 元年二月二日
本朝醫學從來漢土之法御採用ニテ私共ニ家祖以來漢法ヲ以奉仕罷在候處近來世上西洋醫法盛ニ被相行候ニ付先帝様之御時御所向ニ於テハ夷法御採用不被爲在候ニ付和漢之醫法勉勵可仕就テハ醫學所被下置學頭兩人被仰付并ニ講師兩人被御察官人候得共同寮内ニ於テ異存之者有之一致不仕候儀載於今醫學取建候事モ無御座其儘廢絶ニ相成誠以欺ケ欺大第ニ奉存候然處今般御政道御一新外國御和親被仰出候ク字内ニ皇威御耀被爲遊候御儀ニ御座候得ハ醫道モ御國政ニ於テ御仁濟之御一端ト奉存候儀ハ外國ニ於テハ人命ニ拘リ候事故深ク貴重仕各國ニ於テ醫學所醫病院癩狂院等相設ケ醫學ヲ相勸メ偏ク衆庶之疾苦ヲ濟ヒ候事ニ御座候元來外國之風俗何事ニ不研究ヲ重シ日新之學ヲ貴ヒ候得ハ切瑣ノ功ニ加リ漢土古來之法ニ因循シ秋祿ヲ世襲仕等閑ニ打過候事誠以無冥加次第ニテ廢絶仕候事ニテ切瑣ノ功ニ加得共今日之形勢ニ至リ候テハ難打拾置儀ニ奉存候ニ付何卒早ク醫學開講可仕被仰出和漢之醫法講習之儀ハ勿論西洋醫法ニテモ所長ヲ採用仕廣ク醫學ヲ勸メ御政道被爲在候儀外國ニ御耀ニ相成候儀仕度奉存候尤之者ニ御座候被下置學頭ニ於テハ深ク御仁恤之御政道被爲在候儀外國ニ御耀ニ相成候儀仕度奉存候尤從來和漢之法全備仕候得共西洋法ニモ新規發明之術御座候ニ付御採用相成候儀ニ付各和漢之醫法精々勉勵仕候儀可仕仰付候且又皇上ニ於テハ是非和漢之法ノミナラテハ御用不被爲在候御儀ニ御座候得ハ猶更和漢之法切瑣勉勵不仕候テハ不相叶儀ニ奉存候何分從來之舊弊一洗不仕候テハ追々鄙拙之醫道ニ相成外國ニ被爲對御國辱ニ相成候事モ御座候哉ト奉存候猶又醫學所并ニ醫病院等御取建ニ付テハ内外科雜科修學仕候儀ニ付何卒實學實踐之真醫ニ學頭并ニ取締役被仰付官醫ニ限ラズ敷澤之醫士ニテモ材藝ヲ以テ御撰舉被爲遊醫學講師ニ可仕仰付奉存候醫學修仕法之儀ハ前文御採用ニモ相成候儀ハ追々可奉申上奉存候以上
高階安藝守建白 元年四月二十日
西洋醫術是迄於典藥寮ハ被差止置候得共自今所長ニ於テハ御採用ニ相成候儀先達テ被仰出一同奉畏候尤寮内モ追々有志之輩有之候得共右醫術傳習ノ儀當時西洋醫術ヲ以テ開業仕居候醫師共モ追々有之候得共隨從傳習仕候程ニ學術有之候醫師無之候ニ付何卒洋醫名譽之者攝海迄被爲召登居留被仰付有志之者共修學親炙可仕候儀被仰出候得ハ追々西洋醫術傳習仕候テ皇國從來之和漢醫術等モ折衷兼備仕候得ハ往々急度御用ニ相立候醫師出來可仕ト奉存候ニ付不願恐奉建言候御採用ニモ相成候儀ハ難有仕合

奉存候仍テ此段奉申上候以上

布告 元年十二月七日

醫師之儀ハ人之性命ニ關係シ實ニ不容易職ニ候然ルニ近世不學無術之徒猥リニ方藥ヲ弄シ生命ヲ誤リ候者往々不少哉ニ相聞大ニ聖朝仁慈之 御趣意ニ相背キ甚以不相濟事ニ候今般醫學所御取建ニ相成候ニ付テハ屹度規則ヲ相立學之成否術之工拙ヲ篤ト試考シ免許有之候上ナラテハ其業ヲ行フヲ不相成樣被遊度思食ニ候條於府藩縣兼テ此旨相心得治下醫業之徒へ改テ申聞置各其覺悟ヲ以益學術ヲ研究可致旨布令有之樣被仰出候事

達 二年十月十四日

今般三典醫ノ外御醫ノ輩三十歲以上ノ者醫員被仰付三十歲以下ハ醫學修業被仰付總テ大學校附屬被仰付候事

大學へ達 三年八月二十四日

先般元典醫寮被廢候節三十歲以下之輩醫學修行被仰付置候處自今御入撰ヲ以更ニ可被 仰付候間其校附屬被止候此旨相達候事

大阪府伺 四年十月四日

醫術ノ儀ハ獨逸學ヲ始凡テ究理研究ノ科ニ從事セシメ候儀當時ノ御趣意ニ可有之處開業免許規矩未御沙汰不被仰出候ニ付暫權宜ノ許議ヲ以テ本人修業ノ明細書ニ師家證印爲相加尙又監察ノ上施術相應シ可相調趣ノ者ハ免許申付候中ニハ漢醫方致墨守候族モ有之候ニ付未漢方廢止ノ御沙汰無之ニ付免許不申付譯ニモ難相成御座候畢免當府下ノ人情干今西洋方ヲ嫌候様ノ風習故若レ此儘病家醫家互ニ相因仍爲致候時ハ賣藥者愈共志ヲ得醫術振作ノ期モ有之間敷候尤モ從前相應研究ノ經治驗有之輩ハ暫差免活計ニ不離候様爲致置候モ苦シカル間敷候ニ共今後漢方專門ノ者ハ新ニ開業并門生教授ノ儀トモ免許無之旨ニ仕度右ハ各管地同一般ニ可仕仰付儀ニ候ニ共土地柄ニヨリ施行緩急ノ手續モ可有之ニ付御都合

醫學所ヲ設ケ學術ノ成否ヲ試考シ免許ノ上開業ヲ要スルヲ以テ檢シメ府藩縣ヲシテ檢査セシム

八年二月十日文部省達ヲ以テ府藩縣開業試檢査ヲ定ム

二年十二月十四日醫學所ヲ大學東校ト改稱ス學政門學校ノ日ニ載ス

三典醫ノ外御醫ノ輩三十歲以上ノ者ハ醫學修業ヲナサシム

三年八月二十三日達ヲ以テ廢止ス

三十歲以下醫學修業ノ限自今入撰ヲ以テ檢シ大學附屬ヲ止ム

元典醫寮ハ二年七月八日達ニ依テ廢ス官廳門官廳總ノ日ニ載ス

大阪府漢方專門ノ者新ニ開業并門生教授ヲ許サ、ラフコトヲ認請ス

八年二月十日文部省達ヲ以テ新ニ醫學開業ヲ請フ者試業手續ヲ定ム

次第當府限リニテ斷然相行候様仕度此段相伺候也
文部省上申 四年十月十九日
大阪府ヨリ別紙ノ通伺出候ニ付見込可申進旨致承知候同府ヨリ伺出ノ通被仰付可然存候此段申進候也

東校中種痘局ヲ設ケ種痘ノ免許ヲ取扱ハシム

五年九月文部省達第二十
九號ヲ以テ地方官限リ施
術ヲ免許セシム
五年九月種痘局ヲ廢ス學
政門學校ノ日ニ據ス

文部省布達節錄 四年十一月十日(全文ハ學政門學)
今般東校中種痘局相設別紙ノ通規則相立候ニ付諸府縣トモ篤ト相心得管轄地方へ不洩様相達可有之候事

(別紙)

今般東校中種痘局ヲ設ケ種痘醫ノ免許狀并痘苗分與等取扱候ニ付左ノ通可相心得事
一種痘致施行度醫師ハ東校へ可申出詮議ノ上免狀可相渡事
一既ニ種痘術免狀相受候者ハ自今自宅或ハ於他社ヲ結ヒ相當ノ謝儀ヲ受ケ博ク其術ヲ可致施行事
一自今種痘醫ニ有志ノ者ハ免許相受候醫家へ入門其術傳習ノ上免狀可願出事
一免狀ヲ得ルノ手續ハ師家ヨリ其術習熟ノ旨ヲ以可願出事
一免狀ヲ受ケ開業中事故アリテ廢止或ハ死去ノ者ハ免狀可差戻事
一免狀并分苗等渡シ日ハ毎月三八ニ限候事

文部省達 五年九月十九日

種痘致施行度醫師ハ舊東校へ申出詮議之上免狀相渡來候處各府縣下ニ於テ右免許相受候醫師不少候間自今ハ免許相受候醫家ヨリ其術習練之旨弟子之管轄廳へ申出候ハ、地方官限リ詮議ヲ遂ケ不都合之次第無之候ハ、施術免許可致事

文部省達 六年六月十九日

於當省醫務取調候ニ付其府縣管下當時醫術開業ノ者別紙雛形ノ通明細書爲差出且管下大小區ノ人口及

開業醫師ノ明細書并管下大小區ノ人口及每區醫師ノ員數取調ヘ差出サシム

六年十二月文部省達第百四十五號ヲ以テ開業醫師死亡等モ同様届出サシム

其區其區醫師ノ員數取調ヘ早々可差出候此段相達候事
雛形

祿高何程又有無

何府縣實屬士族平民

苗

字

名

舊

通

稱

當酉六月

何歲何箇月

內治 眼科 外科 學研究之次第
產科 口中科

一年號何年干支何月ヨリ何月迄何國何某ニ從ヒ都合何箇年何月間何醫
明細ニ認ム

一年號何年干支何月ヨリ何國何所ニ於テ開業

一元何藩ニ於テ何年何月迄勤務或ハ何年干支何月免役ハ之ヲ記ス
右之通相達無御坐此段奉申上候也

明治六年何月何日

苗

字

名

印

府知事參事

縣令參事

宛

東京府達 六年六月二十九日

右之通被相達候間雛形之通明細相認メ來ル七月五日迄ニ可差出候様市在區々無洩可觸知者也

醫師新々ニ開業或ハ廢業轉籍死亡等其都府届出サシム

文部省布達 六年十二月二十三日

當省本年第八十九號ヲ以テ及布達候醫師履歷明細書差出候後新ニ開業或ハ廢業轉籍死去等致候者有之候ハ、取調其都府可届出此旨布達候事

但新ニ開業并ニ入籍寄留等致候者ハ本年八十九號雛形ニ照準シ履歷相添可届出候事

醫制
八年五月十四日 文部省達
ヲ以テ改正ス

文部省ヨリ東京京都大阪三府へ達 七年八月十八日
別冊醫制先以三府ニ於テ施行可致御許可相成候處從來之習俗素ヨリ一時難被行事情モ可有之ニ付舊手
之儀ハ現今緊要之條件ヲ採摘シ其都度可相達候條順次行届候様厚ク可致注意此旨相達候也
但各地ノ流弊ニ因リ難關事件ハ統テ醫制之旨趣ニ基キ將來ノ目的ニ歸宿致候様其條件ヲ掲ケ舊手之
都度可伺出事

醫制

第一條 全國ノ醫政ハ之ヲ文部省ニ統フ

第二條 醫政ハ即人民ノ健康ヲ保護シ疾病ヲ療治シ及ヒ其學ヲ興隆スル所以ノ事務トス

第三條 文部省醫務局中ニ醫監副醫監ヲ置キ專ラ醫政ヲ擔任セシム

第四條 全國内ニ衛生局七所ヲ設ケ大中小ノ衛生局ヲ置キ文部省ノ旨趣ヲ奉シテ地方官ト協議シ其區
中一切ノ醫務ヲ管理セシム

但シ海陸軍陣病院ノ事務ハ此限ニ非ス

第五條 各地方ニ於テ醫務ニ關スル事件ハ總テ衛生局ト協議スヘシ

(當分)衛生局完備セサル間ハ文部省ニ申出ツヘシ

第六條 地方官ニ於テ醫務掛ノ吏員一二名ヲ置キ管内ノ醫務ヲ掌ラシム其人名ハ兼テ文部省并ニ衛生
局ニ届ケ置クヘシ

但シ地方官員ヨリ兼任タルヘシ

第七條 地方ノ醫師及ヒ藥舗主家畜醫等ヲ撰テ醫務取締トナシ衛生局及ヒ地方官ノ差圖ヲ受ケ部内日
常ノ醫務ヲ取扱ハシム

第八條 醫務取締ハ醫師藥舗主等ヨリ出ス所ノ書類ヲ集メ毎年兩度二月七月中衛生局ニ出スヘシ但シ
臨時ノ願同等ハ其時々地方官衛生局ニ出スヘシ

七年十月七日 文部省達
以テ醫務掛ヲ指定セシム
衛生局ハ日ニ置ス

七年八月二十三日 文部省
達ヲ以テ醫務取締ヲ指定
セシム衛生局ハ日ニ置ス

醫務取締ハ各地ノ習俗并ニ衣食住等ノコトニ付現ニ健康ヲ害スルコトアルヲ察セハ衛生局ニ申出ツ
ヘシ

又流行病アリテ醫師ヨリ届出タル時ハ病症ノ善惡流行ノ緩急ヲ察シ速ニ衛生局并ニ地方官ニ届クヘ
シ

第九條 衛生局ノ長ハ區内ノ醫務ヲ任スト雖モ大事ハ地方官學長院長等ト議シテ其事實ヲ具シ決ヲ文
部省ニ取ベシ

第十條 衛生局ノ長ハ學長院長及ヒ醫務取締等ヨリ出ス所ノ書類ヲ集メ前半年施行セシ醫務ノ得失醫
學校病院ノ盛衰醫師藥舗等ノ學術行狀ヲ察シテ之ヲ記シ且ツ區内人民ノ生死表ヲ製シ後半年施設ス
ヘキ目的費用ヲ附シテ毎年二度四月九月中之ヲ醫監ニ申送スヘシ

所轄ノ地方ニ流行病アリテ醫務取締ヨリ届出タル時ハ衛生局長急ニ醫務取締及ヒ地方ノ大醫碩學ヲ
會シテ預防救治ノ方法ヲ議シ之ヲ文部省及ヒ近隣ノ府縣ニ報告スヘシ

第十一條 醫監副醫監ハ全國ノ醫師藥舗主及ヒ醫學校病院等ヲ總括シ醫政施設ノ得失ヲ勘察シテ事務
ノ順序ヲ定メ其費用ヲ算シテ文部卿ニ啓ス

第一 醫學校

第十二條 各大學區ニ醫學校一所ヲ置キ病院ヲ屬ス

(當分)東京長崎二所ニ設ケ其他ハ地方ノ便宜ヲ度リ漸ヲ以テ設立ス

第十三條 醫學校ハ預科三年本科五年ヲ以テ學課ノ滿期ト定ム

預科入學ハ十四歳以上十八歳以下ニシテ小學卒業ノ證書ヲ所持スル者ヲ撰ヒ體質ヲ檢シテ之ヲ許ス
但シ證書ヲ所持スル者ト雖モ教師校長ノ意見ニ因リ更ニ小學科ノ内醫學ニ緊要ナル數科ヲ檢スル
コトアルヘシ

入學免許ノ時期ハ毎年二次其月日ヲ定メ三箇月前之ヲ報告スヘシ

預科課目

(甲)數學

(乙)獨逸語學

(丁)理學

(戊)化學

(己)植物學大意

(庚)動物學及ヒ礦物學ノ大意

右ノ學科ヲ卒フル後ハ大試業ヲ遂ケ預科卒業ノ證書ヲ與ヘテ本科ニ入ラシム此試業ヲ本科入學試業トス

(當分)二拾歲以下ノ生徒ヲ撰ヒ中小學ノ數科中讀書算術外國語學及其學ヒタル所ニ就テ之ヲ試業

シ年齡體質ヲ較量シ才力ノ當否ヲ察シテ預科入學ヲ許スヘシ

第十四條 本科入學ハ二十五歲以下ニシテ預科卒業ノ證書ヲ所持スル者ニアラサレハ之ヲ許サス

他ノ學校ヨリ轉シテ本科入學ヲ請フ者ハ從來所就ノ學長ヨリ其趣意及ヒ本人ノ屬籍姓名年齡ヲ詳記

シテ其入ラント欲スル所ノ校長ニ送ルヘシ

本科入學ノ試業ハ毎年二次醫學校所在ノ地ニ開キ醫監校長教官等五人至七人ヲ以テ試業掛トシ醫監

校長ノ内一人ヲ以テ其會長トス但シ會長及ヒ試業掛ノ人員ハ開場毎ニ文部卿之ヲ命ス

會長ハ地方ノ大醫碩學ヲ請ヒ試業ニ與カラシムルノ權アルヘシ

試業ノ時日場所ハ三箇月前文部省ヨリ報告スヘシ

(當分)本科入學ヲ請フ者ハ二十五歲以下ニシテ數學獨逸語學羅旬語學及ヒ理化學大意ノ試業ヲ遂

之ヲ許ス各大區ノ醫學校ハ其處置ヲ殊ニス第十五條當分ノ條ヲ參攷スヘシ

本科課目

(甲)解剖學

(乙)生理學

(丙)病理學

(丁)藥劑學

(戊)內科

(己)外科

(庚)公法醫學裁判醫學及ヒ
護健法ヲ謂フ

右ノ學科ヲ卒フル後ハ大試業ヲ遂ケ醫學卒業ノ證書并醫學士ノ稱號ヲ與フ試業ノ法前
條ニ同シ

第十五條 第一大學區醫學校ニハ專門局ヲ屬シ醫學卒業ノ證書ヲ得タル者殊ニ一科ニ志シ其才器大成

スヘキ者ヲ選ヒ學資ヲ給シテ之ヲ入ル

專門ノ科目

(解剖科

(生理科

(病理科

(藥劑科

(內治科

(外治科

(公法醫學科

此外家畜醫學校ニ所ヲ屬ス

(當分)專門局ノ設ナシト雖モ第一大學區醫學校ニハ各科專任ノ外國教師一人宛ヲ置キ專ラ其業ヲ

講習セシム

各大區ノ醫學校預科ノ學問ニ於テ第一大學區醫學校ト差別ナカルヘシト雖モ本科ニ至テハ或ハ其

期限ヲ伸縮スルコトアルヘシ

地方病院ニテ醫學ヲ教授スル者本科入學ハ當分學科ノ試業ヲ要セス從來醫ヲ業トセシ者ハ其長ノ

見計ヲ以テ員外ノ生徒トシ預科ヲ經スシテ直チニ本科入學ヲ許スコトアルヘシ

右ノ病院ハ入學ノ生徒ニ限ラス偏ク醫生ノ出席ヲ許スコトアルヘシ

第十六條 入學ノ生徒ハ校長ノ許可ヲ得ルニ非レハ妄ニ出入スルヲ許サス第十三條以下ハ各地醫學校病院ノ規則ヲ參攷スヘシ

第十七條 官費生ハ毎年兩度別段ノ試業ヲ設ケ從來修メタル所ノ學科ヲ檢シ其撰ニ當ラサル者ハ之ヲ除クヘシ

第十八條 受業料ハ每一期六箇月ヲ開講前一時ニ之ヲ納ムヘシ

第十九條 官費ノ病院ハ醫學校ニ屬スルモノニ限ルヘシ

第二十條 醫學校附屬ノ病院ハ院長或ハ副院長當直醫師藥局長以下ヲ置クヘシ但シ其員數ハ院長其校長ニ議シ衛生局地方官ノ協議ヲ以テ文部省ニテ之ヲ定ム

第二十一條 院長ハ公私病院ニ拘ハラズ醫術開業免狀第三十條所持スル者ニアラサレハ其職ニ任スルヲ許サス

(當分)本科課目ノ大意ニ通スル者ヲ撰テ之ヲ任ス

第二十二條 醫學校附屬病院ノ院長ハ專任或ハ校長副學長ヨリ兼勤スルコトアルヘシ

第二十三條 院長ハ公私病院ニ拘ハラズ每半年間療スル所ノ病客ノ員數治愈死亡病名等ノ明細表ヲ製シ毎年兩度二月七月中衛生局及ヒ地方廳ニ出スヘシ

第二十四條 醫學校ニ屬スル病院ノ費用ハ地方ヨリ其幾分ヲ給スヘシ

但シ入院料藥種料ハ院長其校長地方官及ヒ衛生局ニ議シ文部省ニ申達シテ之ヲ定ム
(當分)入院ノ病客ヲ分テ三等或ハ五等トシ地方ノ便宜ニ應シテ每等相應ノ入院料ヲ收ム極メテ貧窮ニシテ其實證アルモノハ納金ニ及ハス但シ地方病院ノ規則ヲ參攷スヘシ但シ此病院ハ診察料ヲ收ムヘカラス

第二十五條 一府縣或ハ有志ノ人民協同シテ病院ヲ建設セント欲スル時ハ先ツ發起人社中ノ人員醫師

教員ノ屬籍姓名履歷及ヒ會社ノ方法資金ノ緣由保續ノ目的ヲ記シ學問ノ課程病室藥局ノ規則ヲ附シテ地方官ニ出シ地方官之ヲ衛生局ニ議シテ文部省ニ達シ以テ許可ヲ受クヘシ

諸省使寮等ニテ病院ヲ設クル者ハ醫師藥局掛ノ屬籍姓名履歷及ヒ院内ノ諸規則ヲ記シ其長官ヨリ文部省ニ議スヘシ

海陸軍ノ外地方病院ハ學科ノ條目醫師教員ノ撰擧等總テ醫學校及ヒ附屬病院ノ規則ニ準フヘシト雖モ地方ノ情態ニヨリ一時照準シ難キモノハ其情實ヲ記シテ文部省ニ開申スヘシ

第二十六條 徵毒院癲狂院等各種病院設立ノ方法ハ皆前條ニ則トルヘシ

第二 教員附外國教師

第二十七條 凡ソ教員タルモノ醫學校ハ勿論病院私塾ト雖モ必ス教授免狀ヲ所持スヘシ但シ三人以下ノ子弟ヲ教フル者ハ此例ニアラス

教授免狀ハ醫學卒業ノ證書或ハ其專修ノ一科若クハ數科ノ卒業證書ニ行狀證書從來所就ノ校長若ク官ヨリ出スヲ添ヘ衛生局ニ出シテ之ヲ受クヘシ

但シ衛生局ニテ異見アル時ハ更ニ其學科ヲ試業スルコトアルヘシ

(現今)教員ノ職ニアルモノハ試業ヲ要セス

第二十八條 教官醫學校ニテ教員トナハス者ヲ稱ス撰任ハ學士ノ中ニ於テ其學科ニ卓越シタル者ヲ採用ス

(醫制發行後凡ソ十年ノ間)教官ヲ撰用スルニハ其專任ノ科目二三條ヲ檢査スヘシ

第二十九條 教官中ノ一人ヲ推シテ校長トシ學校一切ノ事務ヲ掌ラシム

校長ハ醫監ノ撰擧ヲ以テ文部卿之ヲ命ス

校長ハ躬ヲ教場ニ臨ミ教導ノ體裁教官生徒ノ勤惰進否ヲ察シ全校ノ風儀ヲ整ルヲ以テ旨トス

學校ノ事務ニ付校長新ニ施行セント欲スルコトアラハ必ス先ツ衛生局ニ議シ大事ハ決ラテ文部卿ニ取ルヘシ

校長ノ議若シ醫監ニ協ハサル時ハ直チニ文部卿ニ申白スルヲ得ヘシ校長ニハ在職中學校内ニ於テ一

宇ノ居家ヲ給スヘシ若シ校内ニ相應ノ場所ナキトキハ接近ノ地ニ於テ之ヲ給ス

第三十條 學長ハ前半年間修ムル所ノ學科ノ簡條生徒ノ員數階級等明細表ヲ製シ後半年ノ課程ヲ記シ別ニ學校ノ事務ニツキ自己ノ意見アルモノハ之ヲ附シテ毎年兩度二月七月中衛生局ニ送ルヘシ

病院私塾ニテ醫學ヲ教授スルモノモ亦右ニ同シ

第三十一條 教官ノ員數及褒貶黜陟ハ醫監校長ノ協議ヲ以テ文部卿之ヲ定ム
教官建議スル所アラハ必ス校長ニ申白スヘシ但學校ノコトニ付文部卿及ヒ醫監ヨリ訊問スルトキハ其意衷ヲ悉スヘシ

第三十二條 校長院長教員タル者ハ醫學學校病院及ヒ私塾ヲ論セス或ハ懶惰ニシテ職務ヲ怠リ或ハ商賈ニ通シテ奸利ヲ謀ル等總テ不行跡アルトキハ免狀ヲ取揚ケ教授ヲ禁シ其地方及ヒ文部省ニテ其事由ヲ報告スヘシ

第三十三條 外國教師ハ免狀預科教師ハ中學教授免狀所持ノ者ニ非サレハ雇入ル、ヲ許サス

但第一大學區醫學學校ノ教師ハ右ノ免狀ヲ所持スルハ勿論親シク專門學科ヲ教授シタル者ヲ撰フヘシ

第三十四條 外國教師全國ノ醫政學校ノ課程ニ附キ建議スルコトアラハ必ス先ツ其學校長ニ議シ校長ヨリ醫監ニ開申スヘシ

第三十五條 外國教師ノ給料ハ一箇月四百圓ヲ越ユヘカラス

但シ第一大學區醫學學校ニ於テ有名ノ碩學ヲ雇フトキハ此限ニアラサルヘシ
滿期歸國ノ時ニ臨ミ其勤勞ニ應シ醫監校長ノ協議ヲ以テ文部卿ニ申白シ褒賞ヲ與フルコトアルヘシ

第三十六條 地方病院ニテ外國教師ヲ雇フ時ハ此規則并文部省教師雇入條約規則書ヲ參攷シテ條約擬案ヲ製シ文部省ニ出シテ許可ヲ受ケ然ル後條約ヲ結フヘシ
但シ教師到著ノ上ハ必ス并持ノ免狀ヲ衛生局ニ出シテ點檢ヲ受ヘシ

(當分)在來ノ教師免狀ヲ所持セサル者アラハ更ニ雇繼ヲ許サス

第三 醫師

第三十七條 醫師ハ醫學卒業ノ證書及ヒ內科眼科產科等專門ノ科目二箇年以上實驗ノ證書從來所就ノ師ヨリ出ス、ヲ所持スル者ヲ檢シ免狀ヲ與ヘテ開業ヲ許ス

(當分)從來開業ノ醫師ハ學術ノ試業ヲ要セス唯其履歷ト治績トヲ較量シ姑ク之ヲ二等ニ分テ假免狀ヲ授ク

(醫制發行後凡ソ十年ノ間)ニ開業ヲ請フ者ハ左ノ試業ヲ經テ免狀ヲ受クヘシ

(甲)解剖學大意

(乙)生理學大意

(丙)病理學大意

(丁)藥劑學大意

(戊)內外科大意

(己)病牀處方并手術

即今開業ノ假免狀ヲ得タル者ト雖モ三十歲以下ノ者ハ每三年必ス右ノ試業ヲ遂ケ其免狀ヲ受クヘシ但シ篤志ノ者ハ年齡ニ拘ハラヌ試業ヲ請フコトヲ得ヘシ

產科眼科整骨科及ヒ口中科等專ラ一科ヲ修ムル者ハ各其局部ノ解剖生理病理及ヒ手術ヲ檢シテ免狀ヲ授ク

種痘ハ天然痘病理治方ノ概略及ヒ牛痘ノ性狀種法ヲ心得タル者ヲ檢シ假免狀ヲ與ヘテ施術ヲ許ス痘牛種法條例別冊アリ

第三十八條 海陸軍醫ヲ採用スルニハ各其方法アルヘシト雖モ軍醫監必ス醫監ニ協議シテ其等級ヲ定ルヲ法トス

第三十九條 典醫侍醫モ亦前條ニ同シ

八年二月十日文部省達ヲ以テ醫制開業試驗手續ヲ定ム

七年十月文部省布達第二十七號ヲ以テ種痘檢驗心得方ヲ定ム
七年六月二日文部省達ヲ以テ種痘條例ヲ定ム疾病ノ日ニ關ス

第四十條 開業免狀ヲ所持セスシテ病客ニ處方書ヲ與エ手術ヲ施スモノハ科ノ輕重ニ應シテ其處分アルヘシ

第四十一條 醫師タル者ハ自ラ藥ヲ嚮クコトヲ禁ス醫師ハ處方書ヲ病家ニ附與シ相當ノ診察料ヲ受クヘシ

(當分)診察料ハ各地方ノ貧富人口ノ疎密路程ノ遠近等ニ從テ自ラ差別ナキヲ得ス故ニ先ツ衛生局ニテ其大略ヲ取調地方官ト協議シ便宜ニ應シテ之ヲ定ムヘシ
外科眼科産科口中科等ハ手術ノ大小難易ニ由テ其料ヲ定ムヘシ
時宜ニヨリ診察料手術料ヲ増減スルトキハ衛生局地方官協議ノ上文部省ノ許可ヲ得テ之ヲ報告スヘシ

二等醫師ハ願ニヨリ藥舖開業ノ假免狀ヲ授ケ調藥ヲ許ス

調藥兼帶ノ醫師ハ他醫ヨリ處方書ヲ投スルコトアラハ町寧ニ調合シ毫モ私意ヲ加エス第六十一條第六十三條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條及ヒ第六十九條ノ規則ヲ守リ藥舖主ノ所業ニ殊ナルコトナカルヘシ

調藥兼帶ノ醫師ハ處方書調劑ノ外ハ藥種ノ販賣及ヒ賣藥丸藥散藥膏藥煉藥等ノ如キ調劑ニシテ醫藥ヲ調フヲ禁ス
スルモノヲ禁ス

第四十二條 處方書ニハ病人ノ姓名年齡病名藥劑分量用法ヲ記シ其下ニ年月日及ヒ醫師ノ姓名ヲ書シテ印ヲ押スヘシ

第四十三條 醫師私カニ藥劑ヲ嚮キ或ハ藥舖ニ通シテ奸利ヲ謀ルモノハ開業ヲ禁シ文部省及ヒ地方廳ニテ其事由ヲ報告スヘシ

第四十四條 醫師行狀正シカラス或ハ懶惰ニシテ業ヲ怠リ危急ノ用ニ達セサルトキハ醫務取締區戶長ノ詮議ヲ以テ地方官衛生局ニ届ケ醫業ヲ禁シ地方廳ニテ其事由ヲ報告スヘシ
第四十五條 施治ノ患者死去スル時ハ醫師三日内ニ其病名經過ノ日數及ヒ死スル所以ノ原由ヲ記シ

八年三月二十三日文部省
達ヲ以テ醫師施行ノ傳
達者出方ヲ定ム

虛脫癡癲室息醫師ノ姓名年月日ヲ附シ印ヲ押テ醫務取締ニ出スヘシ

第四十六條 醫師惡性流行病第扶私虎列刺天然痘麻疹ノ類ヲ云フアルコトヲ察セハ急速醫務取締及ヒ區戶長ニ届クヘシ
流行病豫防
法別冊アリ

第四十七條 醫師他所ニ轉シテ開業セント欲ル者ハ所持ノ開業免狀ヲ其地方ノ醫務取締及ヒ區戶長ニ出シテ更ニ許可ヲ受クヘシ若シ醫務取締區戶長其許可ヲ怠リ或ハ之ヲ拒ムトキハ其醫師ヨリ衛生局地方官ニ訴フヘシ

第四十八條 病家診察料ヲ送ラサル時ハ醫師ノ申立ヲ以テ醫務取締及ヒ區戶長之ヲ取立ツヘシ

第四十九條 産科醫ハ生兒ノ男女死生及ヒ年月日ヲ記シテ醫務取締ニ出スヘシ
但流産モ三箇月以上ノ者ハ右ニ同シ

(當分)内外科ヲ論セス總テ産婦ヲ取扱フ者ハ皆本條ニ準ス

第五十條 産婆ハ四十歳以上ニシテ婦人小兒ノ解剖生理及ヒ病理ノ大意ニ通シ所就ノ産科醫ヨリ出ス所ノ實驗證書産科醫ノ眼前ニテ平産十人ヲ所持スル者ヲ檢シ免狀ヲ與フ

(當分)從來營業ノ産婆ハ其履歷ヲ質シテ假免狀ヲ授ク但シ産婆ノ謝料モ第四十一條ニ同シ

(醫制發行後凡十年ノ間)ニ産婆營業ヲ請フ者ハ産科醫或ハ内外科醫ヨリ出ス所ノ實驗證書本條ニテ檢シテ免狀ヲ授ク若シ一小地方ニ於テ産婆ノ業ヲ營ム者ナキトキハ實驗證書ヲ所持セサル者ト雖モ醫務取締ノ見計ヲ以テ假免狀ヲ授クルコトアルヘシ

第五十一條 産婆ハ産科醫或ハ内外科醫ノ差圖ヲ受ルニアラサレハ妄ニ手ヲ下スヘカラス然レトモ事實急迫ニシテ醫ヲ請フノ暇ナキトキハ躬ラ之ヲ行フコトアルヘシ但シ産科器械ヲ用フルヲ禁ス且ツ此時ハ第四十九條ノ規則ニ從ヒ其産婆ヨリ醫務取締ニ届クヘシ

第五十二條 産婆ハ方藥ヲ與フルヲ許サス

第五十三條 鍼灸灸治ヲ業トスル者ハ内外科醫ノ差圖ヲ受ルニアラサレハ施術スヘカラス若シ私カニ其術ヲ行ヒ或ハ方藥ヲ與フル者ハ其業ヲ禁シ科輕重ニ應シテ處分アルヘシ

七年三月文部省達第十一號ヲ以テ東京市藥場ヲ設立ス藥劑ノ目ニ載ス

第四 藥舖附賣藥

第五十四條 東京府下ニ司藥場ヲ設ケ便宜ノ地方ニ其支場ヲ置キ藥品検査及ヒ藥舖賣買等ノコトヲ管知ス司藥場章程別冊アリ

第五十五條 調藥ハ藥舖主藥舖手代及ヒ藥舖見習ニ非サレハ之ヲ許サス

但藥舖見習ハ必ス藥舖主若クハ手代ノ差圖ヲ受ケ其目前ニテ調藥スヘシ

第五十六條 藥舖見習ハ十五歳以上ノ者ヲ撰ヒ其藥舖主ヨリ醫務取締ニ屆ケテ之ヲ用フヘシ

第五十七條 藥舖手代ハ二十歳以上ニシテ豫科課目^{第十條}ノ大意及ヒ處方學ノ試業ヲ遂ケ免狀ヲ受クヘシ

(現今)其用ヲ辨スル者ハ學科ノ試業ヲ要セス

(醫制發行後凡十年ノ間)ニ藥舖手代タラント欲スルモノハ算術理化學ノ大意及ヒ藥物ノ名目品類ヲ試問スヘシ

第五十八條 藥舖主タル者ハ從來所就ノ藥舖主ヨリ本人ノ二箇年以上藥舖手代ヲ勤メタル狀ヲ具ヘ醫務取締ヨリ衛生局ニ申達シ左ノ試業ヲ經テ藥舖開業ノ免狀ヲ受クヘシ

(甲)實用化學

(乙)藥劑學大意

(丙)制藥學

(丁)毒物學

但制藥學校ニテ卒業證書ヲ得タルモノ又ハ醫學卒業證書ヲ所持シテ藥舖主或ハ手代タラントコトヲ欲スル者ハ此例ニアラス

(當分)從來藥舖主タル者ハ學術ノ試業ヲ要セス履歷明細書ニ照準シテ假免狀ヲ授ケ開業ヲ許ス(醫制發行後凡十年ノ間)ニ藥舖開業ヲ願フ者ハ左ノ試業ヲ經テ免狀ヲ受クヘシ

(甲)算術

(乙)理化學大意

(丙)藥劑學大意

(丁)處方學大意

第五十九條 藥舖主及ヒ手代ノ試業ハ衛生局長司藥場長ノ内一人ヲ以テ會長トシ司藥場附屬ノ吏員醫務取締地方ノ醫師藥舖主等五人乃至七人ヲ撰テ試業掛トシ毎年二次之ヲ開クヘシ

第六十條 新タニ藥舖ヲ開カント欲スル者ハ藥舖開業免狀及ヒ行狀證^{從來所就ノ藥舖主或ハ二年以テ}醫務取締ニ出シテ其檢印ヲ受ケ屬籍姓名年齡履歷ノ明細書ヲ添ヘ地方官ニ出シテ許可ヲ受クヘシ

醫務取締其檢印ヲ怠リ或ハ拒ムトキハ衛生局ニ訴フルヲ得ヘシ

第六十一條 免狀ナクシテ藥劑ヲ調合シ或ハ藥種ヲ販賣スル者ハ科ノ輕重ニ應シテ處分アルヘシ

第六十二條 藥舖ニハ精微ノ秤量器及ヒ日本藥局方中ノ藥品純精ナルモノヲ撰テ之ヲ備ヘ缺亡アラシムヘカラス^{日本藥局方別冊アリ}

第六十三條 藥舖ハ衛生局司藥場ノ吏員不意ニ點檢スルコトアルヘシ

但質藥敗藥ヲ貯蓄スル者ハ其事故ヲ糺シテ相當ノ處分アルヘシ

第六十四條 藥舖主及ヒ手代ハ必ス醫師ノ處方書其外一定普通ノ藥方ヲ記シテ需ムル者ニアラサレハ調合スルヲ許サス

但シ單味ノ品ハ劇藥ニアラサレハ醫師ノ外タリトモ販賣自由タルヘシ

第六十五條 醫師ヨリ投スル所ノ處方書ハ其方ニ從テ精細ニ調合シ毫モ私意ヲ加フヘカラス

第六十六條 藥舖ニテ調合シタル藥劑ハ病人ノ姓名藥名分量用法及ヒ年月日ヲ記シ印ヲ押シテ之ヲ與フヘシ

第六十七條 處方書ハ順次ニ其本書ヲ貯ヘ一箇月分宛一冊トシテ二十年ノ間紛失スヘカラスモシ藥舖主病死或ハ事故アリテ藥舖ヲ廢スルトキハ其處方書ヲ束テ醫務取締ニ出スヘシ

但調藥兼帶醫師自己ノ處方モ亦右ニ準ス

第六十八條 劇藥ハ司藥場檢印ノ品ニアラサレハ調合及ヒ販賣スルヲ許サス

(當分)劇藥ニ限ラス品ニヨリテハ検査スルコトアルヘシ

第六十九條 劇藥ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外ハ同業ノ者化學家及ヒ調藥免許ノ醫師ヨリ其需

要ノ旨趣ヲ詳記シタル證書ヲ以テ求ムルニアラサレハ決テ販賣スルヲ許サス

第七十條 右ノ規則ニ準ヒ劇藥ヲ販賣スルトキハ其品ヲ固封シ印ヲ押シテ表書藥名ノ傍ニ毒ノ一字ヲ

大書スヘシ

劇藥販賣ノ節ハ藥名分量年月日及ヒ買人ノ姓名ヲ別帳ニ記シ買人ヨリ送ル所ノ證書ハ二十年間紛失

スヘカラス

第七十一條 賣藥ハ其藥味分量功能用法及ヒ代價ヲ記シ地方廳ヲ經テ衛生局ニ出シ免許ヲ受クル者ニ

アラサレハ調製ヲ許サス

但シ藥味分量等有害ノモノ或ハ其功能書ニ照シテ不當ナルモノハ調製發賣ヲ禁シ或ハ之ヲ改正セ

シムヘシ

第七十二條 免許ヲ得シテ賣藥ヲ製シ發賣スルモノハ藥方ヲ禁シ調劑ヲ没入シ科ノ輕重ニ應シテ其

處分アルヘシ

第七十三條 賣藥家ハ衛生局或ハ司藥場ノ吏員等不意ニ來リ調藥ノ場ニ臨テ仔細ニ検査スルコトアル

ヘシ若シ其検査ヲ拒ミ或ハ隱匿スル等ノ所業アル者ハ賣藥ヲ禁シ相當ノ處分アルヘシ

第七十四條 配藥人 賣子等ヲ總稱ス

ニ屆クヘシ

第七十五條 凡ソ賣藥ハ調藥師并ニ配藥人ヲ合シテ一社ト看做シ調藥師ヲ社長ニ擬ス故ニ其社中賣藥

敗藥ヲ嚮キ或ハ押賣スル等不正ノ所業アルトキハ藥方ヲ禁シ調劑ヲ没入シ科ノ輕重ニ應シテ其處分

アルヘシ

第七十六條 藥師及ヒ調藥師配藥人ハ各一定ノ收稅アルヘシ

以上七十六條

文部省上申 六年十二月二十七日

去六月中醫制取調被仰出別冊編成仕候從來醫術ノ儀ハ古昔ヨリ一定ノ法制無之其弊習深ク人心ニ浸淫
シ一時ニ收拾難致殊ニ醫師等級診察料等ニ至リテハ醫俗トモ目前ノ不便ニ係リ規則ニ堪兼候事情モ有
之候ヘ共醫師自ラ藥ヲ嚮キ候ヨリ今日百端ノ弊害ヲ釀候ニ付此一事ヲ開キ候テハ醫制ノ要領相立不申
依之先ツ三府ニ於テ醫俗ノ事情ヲ斟酌シ診察料ヲ定メ自ラ藥ヲ嚮クヲ禁スル等徐々著手致シ各地方ハ
其官員ニ委子便利ノ處分爲申出共折ヲ以テ規則ニ照シ逐次施行イタシ以テ後進成學ノ日ヲ期候様有之
記載難致臨時開申可仕此段附シテ申上候也
指令 七年三月十二日

上申ノ趣先以三府ニ於テ醫俗ノ事情篤ト斟酌ノ上實際障礙無之様徐々著手可致其他各地方ノ儀ハ當分
可見合事

左院議案 七年三月七日

別紙文部省開申ノ趣審議候處醫制取調ノ儀ハ其始メ賣藥輸入取締ノ爲メ三港ニ於テ司藥局取設度旨伺
出候節司藥ノ儀ハ元來醫制中ノ一部分ニ屬スヘキ者ニ付先以醫制取調上申可致旨昨年六月中御指令有
之候處其後司藥局ノ一事ハ何ニ依テ御聽許相成候折返同本書編成伺出候儀ニ有之依テ再應審議ヲ遂
ケ候處本書醫制ノ如キハ到底御設立無之テハ民間ノ弊害不可言實ニ忽ニスヘキ者ニ有サルハ喋々ヲ待
ス政府ニ於テモ人民ノ性命ヲ保護スル一缺典ナルヘシ左レト之ヲ施シ之ヲ行能ク其人情世態ヲ斟酌セ
サレハ却テ多少ノ障礙ヲ生天下愚夫愚婦ノ心ヲシテ愁苦ノ念ヲ起サシムルニ至ル現今内地ノ景情ヲ察
コトアラシク然レモ之ヲ開明今一層進歩スルニ非スハ或ハ恐之ヲ施テ却テ之ヲ施サハルニ若カサル
販ニ及ハ三年五年ノ期ニアラサレハ同省申立ノ趣モ有之先ツ三府ニ於テ醫俗ノ事情ヲ斟酌ノ漸次除
ト施行候ハ、別段實際ノ障礙モ有之マシク各地方ノ儀ハ當分御見合ヒ追テ時宜ニヨリ御施行有之候方
可然因テ御指令案相添ヘ上陳候也
文部省伺 七年三月二日

昨明治六年六月中被仰出候醫制ノ儀同十二月編成及上申置候處未タ御沙汰無之右ハ人民保護ノ大典且
時機恰當ノ要件ニテ一日モ速ニ施行致度各地方ニ於テモ人心ノ所向共此ニ相見ヘ病院ノ私設月ニ増
シ或ハ藥品鐵屬ノ眞贋精粗ヲ試ミ或ハ鐵泉ヲ發明シテ其成分分析ヲ請ヒ或ハ醫師ノ巧拙ヲ沙汰シ或ハ
刑屍病屍ノ解剖ヲ出願シ或ハ種痘施術ノ法則ヲ設クル等各地各自ノ法則ヲ取調往々伺出共旨趣素ヨリ
舊習ヲ一洗シ醫術ノ進步ヲ期シ總テ衛生ノ急務一日モ不可忽儀ニハ候ヘトモ隨テ願ヒ隨テ許サハ一區
一境方法反異其際人情物議ニ關涉シ却テ醫制頒布ノ障礙ニモ可相成ニ付去夏以來府縣所出ノ願伺ハ一
モ確定ノ指令難相成遷延今日ニ至リ殆ント各地人心ノ方向ヲ挫キ候次第尤賣藥検査試藥所ノ二件ハ既

第六號議案ハ前ニ載スル
所ノ三月七日ノ案文ナリ

種痘醫心得方
九年四月内務省布達中第
八號ヲ以テ改正ス

ニ御決裁相成候ヘハ是亦醫制ノ枝葉ニテ根本不立レハ其取締到底普及難致且目今本眞醫學ノ設東京長崎ノ二校アリテ日進ノ生徒數百名アルモ猶數年ノ薰陶ヲ不經レハ成立スル能ハス從來地方ニ於テ名家眞醫ト稱シ相應ノ學術アル者ハ大抵官ニ奉事シ地方ニ於テハ眞醫殆ント地ヲ拂ニ至危險ノ疾病惡性ノ流行病等ニ遭遇シ至貴ノ性命ヲ損天ヒシムル者不少人民ノ厄難却テ舊時ニ倍候ベトモ到底醫制ノ大本不立レハ一般醫生ノ風習ヲ改メ學術ヲ進メ病院ノ規程藥品ノ取締等ヨリ其他百般衛生上瑣細ノ事タリトモ施設難相成候條旁以至急御決裁有之度此段再應相伺候也
内務課議案七年三月十二日
別紙醫制ノ儀ニ付テノ督促書ハ既ニ本課第六號議案ノ通り御決裁相成候上ハ右ニ照準御指令相成可然存候也

東京府達 八年四月二十日
番外區長戸長

醫制ノ儀文部省ヨリ被達候ニ付テハ其趣厚ク可相心得事

文部省布達節錄 七年十月三十日(全文ハ治癒
今般別紙之通種痘規則相定候條此旨布達候事
種痘規則)

第一條 種痘術ハ免許狀所持スル者ニ非サレハ之ヲ許サス

但種痘術ハ内外科醫ノ行フヘキモノナレハ別ニ免許狀ヲ與フルニ及ハサレトモ現今ノ事情未タ茲ニ至ラス且其術ノ普及ヲ要スルカ故ニ當分此一術ニ習熟セル者ヲ檢シ免許狀ヲ與ヘテ之ヲ施行セシム

第二條 種痘醫タラシモノハ師家ヨリ其術習熟ノ證書ヲ受ケ履歷書ヲ副ヘテ地方廳ニ願出ヘシ地方廳ニ於テハ檢閱ノ上免許狀ヲ與ヘ毎年兩度 三月 九月 當省ヘ届出ヘシ

但從前種痘免許狀ヲ得シ者ハ其履歷并ニ免許狀ヲ得タル手續ヲ詳記シ地方廳ニ出シテ更ニ免許狀ヲ受クヘシ

第三條 種痘術習熟セス又牛痘ノ眞假經過ヲモ辨知シ能ハサル者ニ妄ニ習熟ノ證書ヲ與フル者ハ取糺ノ上相當ノ處分アルヘシ

第四條 種痘免許狀ハ之ヲ他人ニ讓ルヲ許サス故ニ本人其業ヲ廢スルカ或ハ死去スルトキハ速ニ之ヲ返納スヘシ

東京府達 八年一月八日
番外市在區區長戸長

種痘醫免許狀是迄府廳ニ於テ渡來候處今後愛宕下病院ニ於テ從前ノ書式ニ依リ當府押印ノ上相渡候條免許ヲ得タキ者ハ同院ヘ願出ヘク此旨無洩可相達事

文部省ヨリ東京京都大阪三府ヘ達 八年二月十日

醫制第三十七條ノ趣意ニ基キ醫師開業ノ儀ニ付別紙ノ通管下ヘ布達可致此旨相達候事

追テ試業ノ方法ハ其府ニ於テ取調可伺出事

(別紙)

自今新ニ醫術開業ヲ請フモノハ左ノ試業ヲ經テ開業免許狀ヲ受クヘシ

但從來開業ノ醫師ハ試業ヲ要セス府廳ニ於テ住所姓名年齡等詳細取調其員數ヲ記シ新ニ免許狀ヲ受ケ開業スルモノト混雜セサル様處分イタシ文部省ヘ開申スヘシ

試業科目

(甲)物理學化學大意

(乙)解剖學大意

(丙)生理學大意

(丁)病理學大意

(戊)藥劑學大意

(己)内外科大意

產科眼科口中科等專ラ一科ヲ修ムルモノハ各其部局ノ解剖生理病理ノ大意及手術ヲ檢シテ免許狀ヲ授ク

ヘシ

試業ハ當分該府下ニ於テシ毎年四次一月四月七月十月ヲ以テ其定期トス志願ノモノハ其月一日ヨリ十日マテノ内開業スヘキ區内ノ醫務取締ノ押印ヲ受タル願書ニ履歷書ヲ添ヘ府廳ニ出スヘシ
試業ノ上府廳ヨリ文部省ニ具狀シ免狀ヲ受ケ之ヲ本人ニ交付スヘシ

文部省報告 第八年二月二十五日 第十一號

本年二月新ニ醫術開業ヲ請フモノ、手續ヲ三府ニ達セリ右ハ後來醫學ニ就クモノ、志向ニ關係アルヲ以テ左ニ其要略ヲ掲ク 別紙ハ前ノ文部省

東京府達 八年二月十二日 同文ニ付略ス

右之通被相達候間各區無洩可相達候也

文部省醫務局所定 八年五月十日

醫術開業免狀書式

醫術開業免狀書式
九年一月二十五日衛生局
所定ヲ以テ免狀書式ヲ收
正ス

何府屬族平民

姓名

何年何月

何科醫術開業免許候事

年號月日

文部省

第幾號

醫制ヲ改正ス
醫制自然ニ消滅ス然ルニ參
考ニ據スル所ノ衛生局回
答ニ發見スヘシ

八年六月布告第百十二號
ヲ以テ衛生事務ヲ內務省
ニ屬シ醫務局ヲ廢シ八年
七月內務省達乙第八十七
號ヲ以テ第七局ヲ置ク同
年同月同省達乙第九十一
號ヲ以テ第七局ヲ廢シ更
ニ衛生局ヲ置ク衛生總ノ
目ニ載ス十二年十二月內
務省達乙第五十五號ヲ以
テ府縣廳中ニ衛生課ヲ設
ケ事務係項ヲ定ム衛生總ノ
目ニ載ス
八年八月內務省達乙第百
六號ヲ以テ衛生ニ關スル
事項ハ總テ何ヲ經テ施行
セシム衛生總ノ目ニ載ス
十一年五月內務省達乙第
四十四號ヲ以テ衛生事務
擔當吏員ヲ指定出サシ
メ同月二十八日文部省達
乙第百一號ヲ以テ衛生總
ノ目ニ載ス
十二年十二月內務省達乙
第五十六號ヲ以テ町村ノ
公撰ヲ以テ衛生委員ヲ設
ケシハ衛生總ノ目ニ載ス

文部省ヨリ東京京都大阪三府へ達 八年五月十四日
兼テ相達候醫制ノ儀今般別冊ノ通改正候條此旨相達候事
但施行順序等ノ儀ハ最前相達置候通可相心得事

醫制

- 第一條 全國ノ醫政ハ之ヲ文部省ニ統フ
- 第二條 醫政ハ即人民ノ健康ヲ保護シ疾病ヲ療治スル所ノ事務トス
- 第三條 文部省醫務局中ニ醫監副醫監ヲ置キ專ラ醫政ヲ擔任セシム
- 第四條 全國内ニ衛生局七所ヲ設ケ大中小ノ衛生ヲ置キ文部省ノ旨趣ヲ奉シテ地方官ト協議シ其區中一切ノ醫務ヲ管理セシム
- 但シ海陸軍陣病院ノ事務ハ此限ニ非ス
- 第五條 各地方ニ於テ醫務ニ關スル事件ハ總テ衛生局ト協議スヘシ
- (當分)衛生局完備セサル間ハ文部省ニ申出ツヘシ
- 第六條 地方官ニ於テ醫務掛ノ吏員一二名ヲ置キ管内ノ醫務ヲ掌ラシム其人名ハ兼テ文部省并ニ衛生局ニ届ケ置クヘシ
- 但シ地方官員ヨリ兼任タルヘシ
- 第七條 地方ノ醫師及ヒ藥舗主家畜醫等ヲ撰テ醫務取締トナシ衛生局地方官ノ差圖ヲ受ケ部内日常ノ醫務ヲ取扱ハシム
- 第八條 醫務取締ハ醫師藥舗主等ヨリ出ス所ノ書類ヲ集メ毎年兩度二月七月中衛生局ニ出スヘシ但シ臨時ノ顧問等ハ其時々地方官衛生局ニ出スヘシ
- 醫務取締ハ各地ノ習俗并ニ衣食住等ノコトニ付現ニ健康ヲ害スルコトアルヲ察セハ衛生局ニ申出ツヘシ

又流行病アリテ醫師ヨリ届出タル時ハ病性ノ善惡流行ノ緩急ヲ察シ速ニ衛生局并ニ地方官ニ届クヘシ

- 第九條 衛生局ノ長ハ區内ノ醫務ヲ任スト雖モ大事ハ地方官ト議シテ其實事ヲ具シ決テ文部省ニ取ルヘシ
- 第十條 衛生局ノ長ハ醫務取締等ヨリ出ス所ノ書類ヲ集メ前半年施行セシ醫務ノ得失病院ノ盛衰醫師藥舗等ノ學術行狀ヲ察シテ之ヲ記シ且ツ區内人民ノ生死表ヲ製シ後半年施設スヘキ目的費用ヲ附シテ毎年二度四月九月之ヲ醫監ニ申送スヘシ
- 所轄ノ地方ニ流行病アリテ醫務取締ヨリ届出タル時ハ衛生局長急ニ醫務取締及ヒ地方ノ大醫碩學ヲ會シテ預防救治ノ方法ヲ議シ之ヲ文部省及ヒ近隣ノ府縣ニ報告スヘシ
- 第十一條 醫監副醫監ハ全國ノ醫師藥舗主及ヒ病院等ヲ總括シ醫政施設ノ得失ヲ勘察シ事務ノ順序ヲ定メ其費用ヲ算シテ文部卿ニ啓ス
- 第一 公私病院
- 第十二條 公立病院ノ吏員ヲ定ムルハ院長ト地方官ノ協議ヲ以テシ文部省ト衛生局トへ届出ヘシ
- 第十三條 院長ハ公私病院ニ拘ハラス醫術開業免狀 第十條ヲ所持スル者ニアラサレハ其職ニ任スルヲ許サス

(當分)解剖生理病理藥劑內科外科公法醫學ノ大意ニ通スル者ヲ撰テ之ヲ任ス

第十四條 院長ハ公私病院ニ拘ハラス毎半年間療スル所ノ病客ノ員數治愈死亡病名等ノ明細表ヲ製シ毎年兩度二月七月中衛生局及地方廳ニ出スヘシ

又難病奇患ノ始末及ヒ諸經驗等ヲ詳記シテ文部省ニ出スヘシ

第十五條 公立病院ノ入院料藥種料ハ院長其地方官及ヒ衛生局ニ議シテ之ヲ定ムルノ後文部省ニ届出ヘシ

但當分入院ノ病客ヲ分テ三等或ハ五等トシ地方ノ便宜ニ應シテ毎等相應ノ入院料ヲ收ム極メテ貧

九年三月內務省達乙第百
十三號ヲ以テ地方病院官
立公立ノ種別ヲ立テシメ
且病院設立及組織式ヲ
定ム病院ノ目ニ載ス

第ニシテ其實證アルモノハ納金セシメサルコトアルヘシ各地病院ノ規則ヲ參考スヘシ

第十六條 一府縣或ハ有志ノ人民協同シテ病院ヲ建設セント欲スル時ハ先ツ發起人社中ノ人員醫師ノ屬籍姓名履歷及ヒ會社ノ方法資金ノ緣由保續ノ目的ヲ記シ治療ノ課程病室藥局ノ規則ヲ附シテ地方官ニ出シ地方官之ヲ衛生局ニ議シテ文部省ニ達シ以テ許可ヲ受クヘシ諸省使察等ニテ病院ヲ設クル者ハ醫師藥局掛ノ屬籍姓名履歷及ヒ院内ノ諸規則ヲ記其長官ヨリ文部省ニ議スヘシ

第十七條 公立病院ノ院長及職員タル者或ハ懶惰ニシテ職務ヲ怠リ或ハ商賈ニシテ奸利ヲ謀ル等總テ不行跡アル時ハ免狀ヲ取揚ケ其地方及ヒ文部省ニテ其事由ヲ報告スヘシ

第十八條 公私病院ニテ外國醫師ヲ雇フ時ハ條約擬案ヲ製シ文部省ニ出シテ許可ヲ受ケ然ル後條約ヲ結フヘシ

但シ醫師到著ノ上ハ必ス所持ノ免狀ヲ衛生局ニ出シテ點檢ヲ受クヘシ

(當分)在來ノ醫師免狀ヲ所持セサル者アラハ更ニ雇繼ヲ許サス

第二 醫師

第十九條 醫師ハ醫學卒業ノ證書及ヒ內科外科眼科產科等專門ノ科目二箇年以上實驗ノ證書從來所就ハ醫師ヨリ出ヲ所持スル者ヲ檢シ免狀ヲ與ヘテ開業ヲ許ス

(當分)從來開業ノ醫師ハ學術ノ試業ヲ要セス唯其履歷ト治績トヲ較量シ姑ク之ヲ二等ニ分テ假免狀ヲ授ク

醫制發行後凡ソ十年ノ間ニ開業ヲ請フ者ハ左ノ試業ヲ經テ免狀ヲ受クヘシ

(甲)物理學化學大意

(乙)解剖學大意

(丙)生理學大意

(丁)病理學大意

(戊)藥劑學大意

(己)內外科大意

即今開業ノ假免狀ヲ得タル者ト雖モ三十歳以下ノ者ハ每三年必ス右ノ試業ヲ遂ケ其免狀ヲ受クヘシ但シ篤志ノ者ハ年齡ニ拘ハラズ試業ヲ請フコトヲ得ヘシ

產科眼科整骨科及ヒ口中科等專ラ一科ヲ修ムル者ハ各其局部ノ解剖生理病理及ヒ手術ヲ檢シテ免狀ヲ授ク

種痘ハ天然痘病理治方ノ概略及ヒ牛痘ノ性狀種法ヲ心得タルモノヲ檢シ假免狀ヲ與ヘテ施術ヲ許ス種痘規則別冊アリ

第二十條 開業免狀ヲ所持セスシテ病客ニ處方書ヲ與ヘ手術ヲ施スモノハ科ノ輕重ニ應シテ其處分アルヘシ

第二十一條 醫師タル者ハ自ラ藥ヲ嚮クコトヲ禁ス醫師ハ處方書ヲ病家ニ附與シ相當ノ診察料ヲ受クヘシ

(當分)診察料ハ各地方ノ貧富路程ノ遠近等ニ從テ自ラ差別ナキヲ得ス故ニ先ツ衛生局ニテ其大略ヲ取調地方官ト協議シ便宜ニ應シテ之ヲ定ムヘシ外科眼科產科口中科等ハ手術ノ大小難易ニ由テ其料ヲ定ムヘシ

時宜ニヨリ診察料手術料ヲ増減スル時ハ衛生局地方官協議ノ上文部省ノ許可ヲ得テ之ヲ報告スヘシ

二等醫師ハ願ニヨリ藥舖開業ノ假免狀ヲ授ケ調藥ヲ許ス

調藥兼帶ノ醫師ハ他醫ヨリ處方書ヲ投スルコトアラハ叮嚀ニ調合シ毫モ私意ヲ加ヘス第四十一條第四十三條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條及ヒ第四十九條ノ規則ヲ守リ藥舖主ノ所業ニ殊ナルコトナカルヘシ

七年六月二日交部省達ヲ以テ種痘規則ヲ定ム疾疫ノ日ニ應ス
七年十月交部省布達第二十七號ヲ以テ種痘規則ニ應ジテ定ム醫師ノ日ニ應ス
十五年八月布達第三十九號ヲ以テ藥業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキ處分ヲ定ム
十七年四月十八日內務省訓示ヲ以テ藥舖ノ兼業ヲ許ス

十四年十二月東京府布達
中第百七十一號ヲ以テ醫
師ヲシテ地方醫ヲ製シ臨
時ノ職務ニ供セシム治療
ノ日ニ職ス

八年三月二十三日文部省
達ヲ以テ死後遺體ヲ出方
ヲ定メ治療ノ日ニ職ス
▲治療ノ日ニ職ス
八年三月二十三日文部省
達ヲ以テ傳染病預防方ヲ定
メ治療ノ日ニ職ス

十二年三月四日內務省達
乙第百一號ヲ以テ開業醫
師醫務局ノ醫務分方ヲ
定ム

二十三年十一月二十六日
衛生局回答ヲ發シテハ
醫事ノ日誌ニ於テ下產婆
營業免許狀式ノ下ニ職
ス

調藥兼帶ノ醫師ノ處方書調劑ノ外ハ藥種ノ販賣及ヒ賣藥丸藥散藥膏藥煉藥等ノ如キ調劑ニシテ醫
家ノ方箋ニ據ラス諸人ノ需ニ應シテ販賣
スルモノヲ禁ス
ヲ云フ

第二十二條 處方書ニハ病人ノ姓名年齡病名藥劑分量用法ヲ記シ其下ニ年月日及ヒ醫師ノ姓名ヲ書シ
テ印ヲ押スヘシ

第二十三條 醫師私ニ藥劑ヲ醫キ或ハ藥舖ニ通シテ奸利ヲ謀ルモノハ開業ヲ禁シ文部省及ヒ地方廳ニ
テ其事由ヲ報告スヘシ

第二十四條 施治ノ患者死去スル時ハ醫師三日內ニ其病名經過ノ日數及ヒ死スル所以ノ原由ヲ記シ
虛脫癰疽瘰癧等ノ類ヲ謂フ醫師ノ姓名年月日ヲ附シ印ヲ押シテ醫務取締及ヒ病家ニ出スヘシ

第二十五條 醫師惡性流行病第百八號私虎列刺天然
痘麻疹ノ類ヲ謂フ流行病預防
法別冊アリ

第二十六條 醫師他所ニ轉シテ開業セント欲スル者ハ所持ノ開業免許狀ヲ其地方ノ醫務取締及ヒ區戶長
ニ出シテ更ニ許可ヲ受クヘシ若シ醫務取締區戶長其許可ヲ怠リ或ハ之ヲ拒ム時ハ其醫師ヨリ衛生局
地方官ニ訴フヘシ

第二十七條 病家診察料ヲ送ラサル時ハ醫師ノ申立ヲ以テ醫務取締及ヒ區戶長之ヲ取立ヘシ

第二十八條 產科醫ハ生兒ノ男女死生及ヒ年月日ヲ記シテ醫務取締ニ出スヘシ
但シ流產モ三箇月以上ノ者ハ右ニ同シ

(當分) 內外科ヲ論セス總テ產婦ヲ取扱フ者ハ皆本條ニ準ス

第二十九條 產婆ハ四十歲以上ニシテ婦人小兒ノ解剖生理及ヒ病理ノ大意ニ通シ所就ノ產科醫ヨリ出
ス處ノ實驗證書產科醫ノ眼前ニテ平產十人
難產二人ヲ取扱ヒタルモノヲ所持スル者ヲ檢シ免許狀ヲ與フ

(當分) 從來營業ノ產婆ハ其履歷ヲ實シテ假免許狀ヲ授ク但シ產婆ノ謝料モ第二十一條ニ同シ
醫制發行後凡ソ十年ノ間ニ產婆營業ヲ請フ者ハ產科醫或ハ內
外科醫ヨリ出ス所ノ實驗證書本條ニ
同シヲ檢シ
テ免許狀ヲ授ク若シ一小地方ニ於テ產婆ノ業ヲ營ム者ナキ時ハ實驗證書ヲ所持セサル者ト雖モ醫務

取締ノ見計ヲ以テ假免許狀ヲ授クルコトアルヘシ

第三十條 產婆ハ產科醫或ハ內外醫ノ差圖ヲ受クルニアラサレハ妄ニ手ヲ下スヘカラス然レトモ事實
急迫ニシテ醫ヲ請フノ暇ナキ時ハ躬ラ之ヲ行フコトアルヘシ但シ產科器械ヲ用フルヲ禁ス且ツ此時
ハ第二十九條ノ規則ニ從ヒ其產婆ヨリ醫務取締ニ届クヘシ

第三十一條 產婆ハ方藥ヲ與フルヲ許サス

第三十二條 鍼灸灸治ヲ業トスル者ハ內外科醫ノ差圖ヲ受クルニアラサレハ施術スヘカラス若シ私ニ
其術ヲ行ヒ或ハ方藥ヲ與フルモノハ其業ヲ禁シ科ノ輕重ニ應シテ處分アルヘシ

第三 藥舖附賣藥

第三十三條 東京府下ニ司藥場ヲ設ケ便宜ノ地方ニ其支場ヲ置キ藥品検査及ヒ藥舖賣買等ノ事ヲ管知
ス司藥場章程
別冊アリ

第三十四條 調藥ハ藥舖主藥舖手代及ヒ藥舖見習ニ非サレハ之ヲ許サス

但シ藥舖見習ハ必ス藥舖主若クハ手代ノ差圖ヲ受ケ其目前ニテ調藥スヘシ

第三十五條 藥舖見習ハ十五歲以上ノ者ヲ撰ヒ其藥舖主ヨリ醫務取締ニ届ケテ之ヲ用フヘシ

第三十六條 藥舖手代ハ二十歲以上ニシテ數學外國語學羅旬語學處方學并ニ物理學化學植物學動物學
礦物學ノ大意ノ試業ヲ遂ケ免許狀ヲ受クヘシ

(現今) 其用ヲ辨スル者ハ學科ノ試業ヲ要セス

(醫制發行後凡ソ十年ノ間)ニ藥舖手代タラント欲スルモノハ算術物理化學ノ大意及ヒ藥物ノ名目
品類ヲ試問スヘシ

第三十七條 藥舖主タル者ハ從來所就ノ藥舖主ヨリ本人ノ二箇年以上藥舖手代ヲ勤メタル狀ヲ具ヘ醫
務取締ヨリ衛生局ニ申達シ左ノ試業ヲ經テ藥舖開業ノ免許狀ヲ受クヘシ

(甲) 實用化學

(乙) 藥劑學大意

八年十二月二十八日內務
省達ヲ以テ藥舖試驗手續
ヲ定ム藥舖ノ日ニ職ス

十一年七月東京府布達甲
第二十八號ヲ以テ醫務局
械ノ使用ヲ禁ス治療ノ日
ニ職ス
十八年三月內務省達甲第
七號ヲ以テ新タニ入齒々
拔并修骨等ノ營業者取締
法制定方ヲ定ム
十八年三月內務省達甲第
十號ヲ以テ藥舖營業者許
方并其取締方ヲ定ム
七年三月文部省達第十一
號ヲ以テ東京府藥場ヲ設
立ス藥劑ノ日ニ職ス

(丙)製藥學

(丁)毒物藥

但シ製藥學校ニテ卒業證書ヲ得タルモノ又ハ醫學卒業證書ヲ所持シテ藥舖主或ハ手代タランコトヲ欲スル者ハ此例ニアラス

(當分)從來藥舖主タル者ハ試業ヲ要セス履歷明細書ニ照準シテ假免狀ヲ授ケ開業ヲ許ス

(醫制發行後凡ソ十年ノ間)ニ藥舖開業ヲ願フ者ハ左ノ試業ヲ經テ免狀ヲ受クヘシ

(甲)算術

(乙)物理學化學大意

(丙)藥劑學大意

(丁)處方學大意

第三十八條 藥舖主及ヒ手代ノ試業ハ衛生局司藥場長ノ内一人ヲ以テ會長トシ司藥場附屬ノ吏員醫務取締地方ノ醫師藥舖主等五人乃至七人ヲ撰テ試業掛トシ毎年二次之ヲ開クヘシ

試業ノ時日場所ハ三箇月前文部省ヨリ報告スヘシ

第三十九條 新タニ藥舖ヲ開カント欲スル者ハ藥舖開業免狀及ヒ行狀證書從來所就ノ藥舖主或ハ二年以上所住ノ地方官ヨリ出スモヲ醫務取締ニ出シテ其檢印ヲ受ケ屬籍姓名年齡履歷ノ明細書ヲ添ヘ地方官ニ出シテ許可ヲ受クヘシ

醫務取締其檢印ヲ怠リ或ハ拒ム時ハ衛生局ニ訴フルヲ得ヘシ

第四十條 免狀ナクシテ藥劑ヲ調合シ或ハ藥種ヲ販賣スル者ハ科ノ輕重ニ應シテ處分アルヘシ

十九年六月內務省令第十號ヲ以テ日本藥局方ヲ定ム藥劑ノ日ニ載ス

第四十一條 藥舖ニハ精微ノ秤量器及ヒ日本藥局中ノ藥品純精ナルモノヲ撰テ之ヲ備ヘ缺亡アラシムヘカラス別冊アリ

第四十二條 藥舖ハ衛生局司藥場ノ吏員不意ニ點檢スルコトアルヘシ但シ贋藥敗藥ヲ貯蓄スル者ハ其事故ヲ糾シテ相當ノ處分アルヘシ

第四十三條 藥舖主及ヒ手代ハ必ス醫師ノ處方書其外一定普通ノ藥方ヲ記シテ需ムル者ニアラサレハ調合スルヲ許サス

但シ單味ノ品ハ劇藥ニアラサレハ醫師ノ外タリトモ販賣自由タルヘシ

第四十四條 醫師ヨリ投スル所ノ處方書ハ其方ニ從テ精細ニ調合シ毫モ私意ヲ加フヘカラス

第四十五條 藥舖ニテ調合シタル藥劑ハ病人ノ姓名藥名分量用法及ヒ年月日ヲ記シ印ヲ押シテ之ヲ與フヘシ

第四十六條 處方書ハ順次ニ其本書ヲ貯ヘ一箇月分宛一冊トシ二十年間紛失スヘカラス若シ藥舖主病死或ハ事故アリテ藥舖ヲ廢スル時ハ其處方書ヲ束子テ醫務取締ニ出スヘシ

但シ調藥兼帶醫師自箇ノ處方モ亦右ニ準ス

第四十七條 劇藥ハ司藥場檢印ノ品ニアラサレハ調合及ヒ販賣スルヲ許サス

但シ劇藥ニ限ラス品ニヨリテハ檢査スルコトアルヘシ

(當分)檢印ノ手數ヲ不用ト雖モ劇藥ハ精々注意イタシ純良ノ品ヲ貯フヘシ若シ藥舖ニ於テ眞實純雜ノ監別難致品ハ司藥場ニ願出檢査ヲ受クヘシ尤同場ヨリ直チニ其藥名ヲ指シ爲差出檢査スルコトアルヘシ

第四十八條 劇藥ハ醫師ノ處方書ニ據テ調合スルノ外ハ同業ノ者化學家及ヒ調藥免許ノ醫師ヨリ其需要ノ旨趣ヲ詳記シタル證書ヲ以テ求ムルニアラサレハ決シテ販賣スルヲ許サス

第四十九條 右ノ規則ニ準ヒ劇藥ヲ販賣スル時ハ其品ヲ固封シ印ヲ押シテ表書藥名ノ傍ニ毒ノ一字ヲ大書スヘシ

劇藥販賣ノ節ハ藥名分量年月日及ヒ買人ノ姓名ヲ別帳ニ記シ買人ヨリ送ル所ノ證書ハ二十年間紛失スヘカラス

第五十條 賣藥ハ其藥味分量功能用法及ヒ代價ヲ記シ地方廳ヲ經テ衛生局ニ出シ免許ヲ受クル者ニアラサレハ調製ヲ許サス

七年九月十九日文部省達ヲ以テ毒藥取扱規則ヲ定ム藥劑ノ日ニ載ス

十年一月布告第七號ヲ以テ賣藥規則ヲ定ム藥劑ノ日ニ載ス